

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1071000259		
法人名	加納商事株式会社		
事業所名	グループホームゆうあい 東棟		
所在地	群馬県富岡市中高瀬61-5		
自己評価作成日	平成26年4月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成26年5月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①清潔ケア・・・午前・午後の2回下のケアを行い、その他排便時に行う。入浴以外の日は必ず足浴を行っている。(輪になって歌を唄い心身共にコミュニケーションを図っている。 ②手作り料理・・・利用者様が毎日の食事をおいしく摂取できることを願っている。 ③手足運動・・・1日3回手足運動を行っている。下肢筋力の維持の為、毎日ボール蹴りを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者の心と生活を大切に、地域の中で自分らしく、自由に、笑顔で暮らす理念を掲げ、新規採用職員には理念を配布して説明し、3ヶ月後から6ヶ月後の理念の実践状況を求めている。全体会議や時にはミーティングで理念を確認し振り返りを行い、入居者が一日をゆったりと気持ち良く過ごせるようとする共に、家族の意向を大切に事業所運営を行っている。排泄の自立支援に向けては、トイレでの排泄に努めると共に、1日2回定時の陰部洗浄の他失禁時にも行い、さわやかな日々が送れるよう支援している。また、家族や本人が安心して日々の生活が送れるよう重度化や終末期に向けた方針を契約時に説明し、職員は協力医が作成したマニュアルに基づき勉強会を開き、医師・訪問看護師・家族が連携し、重度化や終末期に向けた支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1071000259		
法人名	加納商事株式会社		
事業所名	グループホームゆうあい 西棟		
所在地	群馬県富岡市中高瀬61-5		
自己評価作成日	平成26年4月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成26年5月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で暮らし続けることの意義を重く受け止め、その人らしく暮らして行けるよう支援して行くために、理念をもう1度職員で振り返るようにしている。	入居者の心と生活を大切に、地域の中で自分らしく、自由に、笑顔で暮らす理念を掲げている。新規採用者には理念を説明し、3ヶ月後から6ヶ月後には理念の実践状況を求めている。全体会議や時にはミーティングで理念を確認し、入居者の支援と共に、家族の意向を大切に支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の道路清掃やごみ収集所の掃除当番、消防の研修に参加し近所の方とあいさつを交わしている。野菜等々を頂いている。	自治会主催の道路清掃やごみ収集所の掃除当番に参加したり、事業所の「新聞」を自治会の回覧板で回したりしている。近所の人達と朝夕の挨拶を交わし、野菜を沢山頂いた時は近くの家にお裾わけするなど、地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議等で伝えながら民生員、区長などと困っている方の相談にお互い連携を活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で現状の変化や様子などを取り上げ、重度化しているなど、外出もままならない様子を知って頂き、相談して協力を得ている。	区長・民生委員・地域代表・家族代表・市職員を構成員として、隔月に開催している。感染症予防や事故防止・認知症・看取り介護について議題を決め意見交換を行い、家族や入居者の意向を大切に、安心して過ごせるよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市職員の運営推進会議の参加、ホーム側から包括支援センター主催の会議に毎回参加して連携を深めている。	市の担当者に、空き室情報を伝えている。地域包括支援センター主催のグループホーム職員を対象とした会議に参加して情報交換を行い、事業所が抱える課題について市の助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修内容を参考に具体的な行為を正しく理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	入居者がベッドから転落する等の問題が発生する度に、身体拘束のない具体的なケアについてミーティングで話し合い、一人ひとりに合った拘束のない支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝のミーティングで利用者の状態を確認して、介護者自身を追い込まない様、悩みを共有しながら虐待防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市の日常生活自立支援事業の担当者に研修をして頂き、勉強会をしている。対象者がいれば、市とも相談して行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項等々の説明を充分に行いさまざまな細分の疑問点にもこたえる旨を伝え理解を得て契約を行う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から些細なことでもお伝えし、気軽に何でも相談して頂ける環境作りをしている。	毎月、入居者の健康状態や生活状況を記載した手紙を送り、事業内容を知ってもらい、意見や要望を言い易い雰囲気作りを行っている。家族からの要望に希望する入居者を含め筆字を習ったり、縫物を希望する入居者には雑巾を縫ってもらったりなど、家族や入居者の意向を採り入れた事業所運営を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	昼休みのミーティングで出た意見を上に繋げて、全体会議などで内容の検討を行っている。	職員は、施設長や管理者・介護支援専門員に不満や意見を積極的に発言し、マニュアルの利用方法や勤務体制について意見交換が行われている。また、秘密保護の面から面会ノートをカード方式に変えるなど、職員の意見を採り入れた事業所運営を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	水準を決める際には評価基準を基に職員個々の努力を把握して、それに見合う待遇を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入社員研修を3ヶ月・6か月と行い、内外研修を奨励している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する研修があり、互いのスタッフが訪問して活動を通じて意見交換を行い、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面会・見学に来所して頂き、アセスメントを行い納得の行くまで相談を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回の面談で時間をかけて相手の要望を受けている。ホームの内容も伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	書類を用意してあり、その時どうするかまで主治医の意見もふまえ、さまざまなサービスを伝えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活場面や本人との会話の中から職員が利用者様に教えてもらうことが多く、笑いのある日々になるよう共に支えあう関係作りを構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の日常生活・体調など、ホーム便りや一筆箋などで伝えている。体調の変化などその都度連絡して、共に支える関係を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外泊、外出、家族・友人・知人の訪問は歓迎しており場所を設定して楽しんでもらっている。	契約時に、面会時間は何時でも良いと伝え、家族や親戚・友人が訪問し易い運営に努めている。家族と墓参りに出かけたり、法事に参加して親戚の人達と歓談したり、絵手紙の年賀状を書いたりなど、親しい人達との交流継続に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	難聴の方やそれぞれの状態の把握を行い、会う者同士のソファでの会話に同席して、孤立しないよう皆と和をもち、関係を築けるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様の家族はサービスの終了後の不安を強く持っています。よく相談を行い、いつでも支援のお手伝いをできることを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報や本人との会話の中から本人の思いや意向を把握して、その方に合った生活に近づけるよう支援している。	入居時に暮らし方などの要望を聞き日々のケアに活かし、日常のケアのなかでは一人ひとりの意向を尊重し、希望に沿った席替え等を行っている。意思表示の難しい人はしぐさや表情から推測し、その人本位の支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の今までの背景をアセスメントし、ケアプランに活かしてサービスに繋いでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの状態、言動を見ながらその方に合った環境を作るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族には、日々の関わりの中で思いや意見を聞き、ミーティングや職員会議、全体会議の中で職員が気づきや意見を出し合い利用者本位の介護計画を作成している。	介護計画は、家族や本人・職員の意見を取り入れて作成している。毎月モニタリングを行い、サービス担当者会議を随時に開いている。介護計画は1年毎に作成し、6ヶ月の長期目標と3ヶ月の短期目標を掲げている。	担当者会議に合わせ3ヶ月毎の介護計画を作成し、日々の介護記録は介護計画書に沿って行われるよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日一人ひとりの日常を記録し、記入している。引き継ぎを行い、情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族、主治医とも相談しながら、既存のサービス以外に生まれるニーズには、最大限考えて話し合い、今必要なことに繋げるよう支援する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れや消防訓練を運営推進委員会等で協力しながら行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に要望を聞いて疾患の内容により、それぞれのかかりつけ医を受診している。ホームでの主治医の紹介もさせて頂いている。	契約時に家族の意向を聞き、家族の希望するかかりつけ医に受診し、職員が立ち合い状況を説明している。2人の協力医が月1回往診し、入居者の健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	正看護師1名・准看護師2名の協働で利用者を支えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員がお見舞いに顔を出し、ご本人を励ましながら主治医とも相談して早期退院に支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人や家族に説明し方針の統一を図っている。主治医、家族や職員等で連携を図りながら、状況の変化を伝え本人家族の意向を受け止め、可能な限りホームで支援する。	家族や本人が安心して日々の生活が送れるよう重度化や終末期に向けた方針を、契約時に説明している。職員は協力医が作成したマニュアルに基づき勉強会を開き、重度化の進行状況に応じ医師と家族・事業所で話し合い、医師・訪問看護師・家族が連携し、看取り介護を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時のマニュアル作成をして職員で共有している。救急救命の講習を受けて備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行い全員参加で避難場所、消火器設置場所の確認を行い、推進会議でも再度地区に声を掛けをして参加をお願いしている。	総合避難訓練を年2回行い、うち1回は消防署の指導を受け、近隣の人達の参加を得て、夜間を想定して行っている。日勤者による元栓の確認、食糧や飲料水の備蓄をしている。2月の大雪の際には、災害時における近隣在住の職員による体制づくりの確認となった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない対応や言葉掛けには最前の注意を払っている。記録等の個人情報の取扱いに関しては、秘密保持の徹底に努めている。	日々の支援の際は、ダメ等の言葉遣いに配慮し、入室時はノックし言葉かけを行うなど、プライドを損ねないよう尊敬の念をもって支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何々ができますか。これはどうでしょう。やってみますか。などの本人に合った声掛けで自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりが抱えていることを大事に、その日の体調に合わせて1日を過ごせる支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	病院、演奏会、お花見、家族との外出に本人と相談しながら見出しなみやお気に入りの服を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを分かり、柔らかく呑み込みのよい食材を用意している。お手伝いの出来る方にはできる範囲内でしてもらっている。	調理専門職員が入居者の希望を採り入れ、旬の食材を使い、美味しくかつバランスの良い料理を提供している。入居者はテーブル拭きや下膳を行い、時にはふきの筋取りを職員と共に行っている。職員は同じ食事を摂り、歓談し楽しい一時を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の少ない方、水分摂取量の少なめな方には必ず職員が隣席にて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日3回食後の口腔ケアを必ず行っている。虫歯、入れ歯、噛み合わせなどの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を記入して一人ひとりのパターンを把握しながら自立に向けた支援をしている。	排泄記録表に基づき、トイレでの排泄に努めている。午前と午後に陰部洗浄を行い清潔保持に努め、病気の予防と早期発見に役立て、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状態を確認しながら、野菜を中心に栄養バランスを考え、運動も加え支援している。頑固な便秘には主治医と相談しながら支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、体調など本人の希望により曜日の配慮をしている。入浴拒否のある時は、状態を見ながら声掛けをして入浴を促している。	4月からは週3回の入浴とし、入浴日以外は毎日足湯を行い、水虫の早期発見・早期治療、冷え症と足のむくみ解消に取り組んでいる。また、入浴剤を使用し、入浴後は「良い香りがしますね」などの言葉かけにより入浴拒否の解消に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動的な生活の支援、心地よい室温で午睡をして頂き、日光にて布団を温めて熟眠が出来るようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の内容を理解しており、処方の変ったときは、全員に周知し、副作用等含め入居者の変化に注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の背景のアセスメントなどで生活歴を見て、出来ることを支援する。得意分野、苦手な部分を見て声掛けを行い支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	趣味の仲間と戸外に出かける支援をしたり、本人が日常的に使う物品の買い物や、晴れた日の散歩、家族等と戸外に出かけられるよう支援している。	散歩を楽しみとしている人には、職員が同行しほぼ毎日出かけたり、通院時にシャクヤクや芝桜を見物したり、家族と共に外泊や外食に出かけたりなどの外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は基本的には持っていませんが、本人の希望の物の買い物に同行し、明細は立替にして家族に渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に利用してもらっている。暑中見舞い、年賀状を書き家族に送っている。月1回利用者様の様子を手紙でお伝えしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日清掃を丁寧に行い、美しく飾った花など清潔感あふれた玄関、ホール、季節を感じてもらえる庭、心地よく過ごせるよう工夫している。	広々とした共用空間は、入居者がモップ掛け等を手伝い清潔が保たれ、2つのユニットが併設され、互いの入居者が交流している。壁には行事の写真や入居者と職員が製作した貼り絵が飾られ、気持ち良く過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	会話の合う利用者同士の若いころの話が盛り上がるような支援を行い、明るい日差し、庭の花を季節ごとに楽しみながら過ごせるよう工夫している。春には日差しをいっぱい浴びる時間を楽しめるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みの物品を使用してもらい、家族の写真や花、カレンダーを飾り、心地よく過ごしてもらえるよう工夫している。	仏壇や使い慣れた藤椅子・整理ダンス等の家具が持ち込まれている。昨年家族から贈られた鉢植えのコチオウランが花開き、今年贈られたバラとカーネーションの生花に水やりするなど、張り合いを持ち楽しく過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室、ホールと区別してあり、分かりやすく自由に行き来出来るよう工夫している。		